

## APRU-IRIDeS マルチハザードプログラム サマースクールを開催しました（2017/7/18-21）

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード  
場所：東北大学災害科学国際研究所

東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）と環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities：APRU）は、東北大学において、第5回マルチハザードサマースクールを7月18-21日の4日間にわたり開催しました。参加者・講師を含め、10か国のべ約40名が参加しました。開会式では、里見進東北大学総長、クリスティーナ・シヨンレバーAPRU政策・プログラムディレクター、今村文彦IRIDeS所長が開会の挨拶をされました。

初日は3D映画「大津波 3.11 未来への記憶」上映後に、東北大学の教員が、東日本大震災からの教訓や経験をもとに、国際防災戦略、住宅復興再建、津波解析、歴史資料保存、マリンスイエンスと復興などの様々な観点から講義を行いました。各教員の講義タイトルは以下の通りです。

- 小野裕一教授「国連における国際的な防災政策の立案」
- マリ・エリザベス助教「東日本大震災から6年後の住宅の復興」
- サッパシー・アナワット准教授「東北地方における津波とその対策」
- 杉浦元亮教授「東日本大震災の被災者にみられる災害時の生きる力に関する8つの特性」
- 佐藤大介准教授「被災したコミュニティにおけるレジリエンスと社会資本の構築」
- 木島明博教授「東日本海洋生態系解析プロジェクト：東日本大震災からの復興と科学を通しての海洋復元」
- 泉貴子特任准教授「防災における様々なステークホルダーの役割」

さらに、亘理町の高屋小学校、多賀城市、国際NGO（CWS Japan）からも復興の様子や防災におけるそれぞれの役割について学びました。また、20日の巡検では、東松島市の旧野蒜駅、旧女川診療所、女川駅、東北大学女川フィールドセンターなどを視察しました。

参加者からは、「特に東日本大震災に関する研究や防災の様々な分野について学ぶことができ、大変有意義であった」「参加者同士が異なる災害研究について紹介・議論することができ、勉強になった」などのフィードバックがありました。参加者からの意見やアドバイスをもとに、来年のサマースクールのプログラムをさらに充実させていきたいと考えています。



里見総長の挨拶



開会式での全体写真

文責：泉貴子（情報管理・社会連携部門）  
（次頁へつづく）



今村所長の挨拶



シヨンレバーAPRU 政策ディレクターの挨拶



女川町巡検



旧野蒜駅（巡検）



講義の様子



グループ討議